

メッセージ 海と渚

Message Sea and Beach

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp URL http://www.umitonagisa.or.jp



ご挨拶

メッセージ第18号をお届けします。

本年は新型コロナウイルス感染症流行下において「全国一斉海浜清掃旗揚げ式」は延期となりましたが、全国各地の清掃活動は予定の7割を超えて実施され、当機構が提供した漁民の森活動の写真もTBSで全国放送されました。

我が国海岸線の総延長は約35,000km。地球の円周は約40,000km ですから、海岸線がいかに入り組んでいるか想像できます。この海岸線は多様な景観を眺められる一方で、海や河川から物が漂着しやすい場所でもあります。ごみが集まる場所は流れ藻や遊泳力のない稚仔魚も集まりやすく、海洋生物の産卵、育成に悪影響を与えると考えられます。

標高8,848メートルのエベレスト山頂に続く登山道は長年、蛍光色のテントや廃棄された登山用具、空のガスボンベ、更には凍った排せつ物までも散乱し、「世界で最も高い所にあるごみ捨て場」とも呼ばれているようです。

数年前に訪れた南太平洋ソロモン諸島の中華系食料品店の周りはジュースの空き袋のごみ捨て場となっていました。捨てられているごみを見れば、捨てても許されると考え、次の人もまたゴミを捨ててしまいます。

そもそも犯人・罪人を作らせない、ごみにさせないシステムが必要です。

どの港に行っても、海から持ち帰った廃棄物を投入できるごみ箱があつて、適宜回収されたり、リサイクル業者が使用済みプラスチック資材を適価で買取りに来たり、使わなくなった発泡スチロールを減容する機械や燃料ペレット造粒機があれば、ごみはエネルギー資源に変容します。

海岸の漂着物といえば、本来「ごみ」ではなく、童謡「椰子の実」のように黒潮上流の「名も知らぬ遠き島」に思いを馳せるものであったと思います。

海浜清掃などで海辺を訪れる回数が増え、海に親しみを持ち、豊かな海を残したいと思う人が少しでも増えてほしいものです。

今後も皆様からご賛同頂き、ご支援を賜れるよう、着実に活動をすすめてまいります。 (専務理事 糸知文)

CONTENTS

表紙	1
1. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告	2
2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業	
①令和元年度海浜等清掃活動状況調査報告	7
②令和元年度漁民の森づくり活動等調査	10
3. 環境・生態系維持・保全活動等支援事業	12
～漂着ごみ回収処理作業展～琴引浜鳴き砂文化館	12
あとがき	12

1. 令和2年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告の一部をご紹介します。
<http://www.umitonagisa.or.jp/html/genchihoukoku.html>

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え、日本財団からも助成金をいただきました。この資金で海と渚の環境美化運動の全国的な展開をより効率的に推進するための清掃資材(ゴミ袋)を下表のとおり、漁協、地方自治体、NPO等に配布いたしました。今年は海洋プラスチックごみが注目され、海浜清掃の役割がますます高まっていくものと思われます。これらの活動グループからの報告が逐次当機構に寄せられています。これまでのホームページの掲載に加え、即時性を高めるため、ツイッターにも掲載するようにいたしました。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるように工夫しました。どうぞ、ホームページだけでなくツイッターでもご覧になって下さい。

Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

【清掃資材(ゴミ袋)配布実績】

(単位:万枚)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			大	小	大	小	大	小
自然物ゴミ袋	34(8)	32(8)	33(8)	1.7	31(7.5)	0.7	23.6	0.7
人工物ゴミ袋	25	21	22	1.8	20	0.8	15.8	1.9
計	59(8)	53(8)	55(8)	3.5	51(7.5)	1.5	39.4	2.6

注:()内の数字はJFマリンバンクからの提供枚数です。

平成30年度以降は小20L相当のゴミ袋も作成し、4種類のごみ袋を配布しました。大はこれまでと同じ大きさのごみ袋

■ 北海道

① 苫前町

令和2年 6月30日

活動場所 苫前町海岸

参加者 97人

ごみの量 自然物ゴミ 400袋

人工物ゴミ 400袋

その他 300袋

コメント 苫前町では毎年6月はじめに、町内会や各団体、企業など多くの町民の方々にご協力をいただいて町内海岸のゴミ拾いを実施しております。

今年度は新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせていましたが、無事クリーンアップ日本海事業を実施できてよかったです。



② えりも漁業協同組合庶野 沖合部会

令和2年5月21日

活動場所 庶野漁港

参加者 33人

ごみの量 自然物ゴミ 45袋

人工物ゴミ 10袋



③ 神恵内村

令和2年4月30日、7月8日、7月9日

活動場所 神恵内村海岸部一帯

参加者 22人

ごみの量 自然物ゴミ 100袋

人工物ゴミ 100袋

④ 野付漁業協同組合地区漁 港愛護会

令和2年 4月22日

活動場所 尾岱沼漁港

参加者 150人

ごみの量 自然物ゴミ 104袋
その他 コンテナ2台



⑤ 湧元前浜船主連合会

令和2年6月10日

活動場所 知内漁港

参加者 35人

ごみの量 自然物ゴミ 大35袋
小25袋、人工物ゴミ
大29袋 小40袋



■ 秋田県

三種町商工観光交流課

令和2年6月17日、6月30日

活動場所 釜谷浜海水浴場

参加者 400名（建設業協会30名
町370名）

ごみの量 自然物ゴミ 600袋
人工物ゴミ 300袋
その他 流木・海岸漂着
物等

コメント 三種町釜谷浜では、毎年7月に海開きを行い、町の最大イベントであるサンドクラフトが開催される。海開きを前に、町民自らの手で海岸をきれいにしようという事業。

まず町建設業協会が重機を使用して巨大な流木等を含めたごみを収集、その後日、町民（各協力団体、小中学生等）による大規模クリーンアップを行う。



■ 青森県

①横浜町

令和2年6月28日

活動場所 横浜町内（陸奥湾沿岸地域）

参加者 約800名

ごみの量 自然物ゴミ 100袋
人工物ゴミ 900袋

コメント 町民や産業団体などのボランティアで実施しているが高齢者が増え海岸線での清掃に参加できる人数が年々減少してきている。海岸には流された漁具が多く、縄や網などの重量のあるものは回収しきれない



②小泊漁業協同組合

令和2年5月15日

活動場所 小泊漁港全域、一部海浜域

参加者 約800名

ごみの量 自然物ゴミ 100袋
人工物ゴミ 900袋



③外ヶ浜町蟹田地区及び平館地区の海岸

令和2年8月26日

活動場所 小泊漁港全域、一部海浜域

参加者 中学生61人
スタッフ等27人

ごみの量 自然物ゴミ 130袋
人工物ゴミ 50袋



④階上町 産業振興課 7月

令和2年7月23日

活動場所 階上海岸全域 5.5km

参加者 300人

ごみの量 自然物ゴミ 300袋
人工物ゴミ 300袋



⑤野辺地町漁業協同組合

令和2年7月10日

活動場所 階上海岸全域 5.5km

参加者 83人



■ 富山県

氷見市水産多面的機能発揮対策協議会

令和2年6月28日

活動場所 富山県高岡市太田地区
海岸

参加者 37人

ごみの量 自然物ゴミ 40袋
人工物ゴミ 5袋

コメント 流木や砕けた木くず、海藻や藻などが漂着していたが、地区の皆さんの協力のもとゴミのないきれいな砂浜の海岸になった。

今後も、きれいな海を保全するため清掃活動を行っていきたい。



■ 福井県

北潟漁業協同組合

①令和2年6月27日 ②8月30日

活動場所 ①波松海岸 ②北潟海岸

参加者 ①185人

ごみの量 自然物ゴミ 70袋
人工物ゴミ 150袋
その他 冷蔵庫1台
バッテリー3個

コメント 年1回では対応できない量であった。まだまだいっぱい残っている。年に3回はやらないと無くならない。ゴミ箱を設置できないか。

新型コロナの影響で北潟地区は6月が9月に変更になったが暑くて大変だった。



■新潟県

上越プラネット

①令和2年7月11日

②令和2年10月3日

活動場所 虫生岩戸～居多海岸

参加者 ①150人 ②650人

ごみの量 ①人工物ゴミ 150kg

②人工物ゴミ 1200kg

コメント 地元の海をきれいになってうれしい。今後も積極的に参加したい。



■静岡県

①静波区夏季海岸清掃委託

令和2年7月11日～8月21日

活動場所 静波海岸

参加者 10人/日



② Nature Clean

①令和2年5月23日(火)

活動場所 江南中学校西側



②令和2年6月27日

活動場所 海浜公園駐車場から東へ移動した土手下



■三重県

中部電力株式会社

令和2年6月9日(火)

活動場所 三重県尾鷲市中川河口
左岸

参加者 38人

ごみの量 自然物ゴミ 10袋

人工物ゴミ 10袋

その他 タイヤ・椅子など

コメント 発電設備等の撤去工事を進めている当社の尾鷲三田工事所(旧尾鷲三田火力発電所)では、今年も当社と関係会社の従業員38名が近くを流れる「中川」の河口左岸沿いの清掃活動を実施し、捨てられたペットボトルや空き缶の他タイヤや椅子などのゴミを拾い集めました。



■富山県

①北陸電力(株)

富山新港火力発電所

令和2年6月23日

活動場所 海老江浜

参加者 31人

ごみの量 自然物ゴミ 21袋

人工物ゴミ 1袋

その他 鉄の棒1本

コメント ゴミは少なく、木や草が多かった。コロナの影響で夏は海水浴をする人が多くないかもしれないが、環境保全としては清掃することにより浜辺が綺麗になり良かった。流木や砕けた木くず、海藻や藻などが漂着していたが、地区の皆さんの協力のもと、ゴミのないきれいな砂浜の海岸になった。今後も、きれいな海を保全するため清掃活動を行っていきたい。



②滑川市

活動場所

4/13、6/19、8/5: 吉浦海岸沿い

7/18、9/19、9/29: 滑川漁港海岸

7/28: 高塚海浜公園

9/24: 高塚漁港海岸

参加者 7/18: 約80名

9/19: 約60名

9/24: 40名 ほか不明

ごみの量 自然物ゴミ 262袋

人工物ゴミ 49袋



■新潟県

東京電力HD株式会社柏崎刈羽原子力発電所

令和2年6月18日・19日・22日・24日・25日

活動場所 発電所近隣の海岸(荒浜海岸)

参加者 36人

ごみの量 人工物ゴミ 200袋

コメント 発電所に隣接する荒浜海岸にて実施。新型コロナウイルス対策として、大勢での実施を止め、少人数で複数日をかけて実施。日を追うごとにきれいな砂浜が広がっていき、気持ちのいい汗をかくことができました。



■福井県

①美浜町漁業協同組合

令和2年6月23日

活動場所 三方郡美浜町菅浜漁港

参加者 15人

ごみの量 自然物ゴミ 20袋

人工物ゴミ 8袋

その他 5袋

コメント 枯れ草、枯れ枝の漂着ゴミが多かった。海岸への漁網・ロープ類の漂着ゴミは、処分できなかった。



②小浜市漁業協同組合

令和2年6月7日

活動場所 小浜、加斗、甲ヶ崎、若狭、仏谷、堅海、泊、宇久、加尾、犬熊、田島、川崎

令和2年6月8日

活動場所 西小川、阿納

令和2年6月28日

活動場所 志積、矢代

参加者 261人

ごみの量 自然物ゴミ・人工物ゴミ・その他 合計フレコンバック 266袋



■ 石川県

実施グループ：

ビーサン跳ばしメモリアル
ビーチクリーン 2020

令和2年4月13日、6月19日、7月18日、7月28日

活動場所 金沢市金石海岸

参加者 109人

ごみの量 0.4t



■ 東京都

NPO 法人ふるさと東京を
考える実行委員会

令和2年7月19日～8月30日(43日間)

活動場所 葛西海浜公園西なぎさ

参加者 のべ557人



■ 茨城県

日立市大みか特称会佐賀県

令和2年7月22日

活動場所 伊師浜海水浴場区域

参加者 13名

ごみの量 人工物ゴミ10袋



日立市倫理法人会

令和2年7月24日(金)

活動場所 伊師浜海水浴場区域

参加者 約13名

ごみの量 自然物ごみ 10袋

人工物ごみ 15袋



■ 京都府

京都府漁業協同組合
網野支所

令和2年8月11日、8月17日

活動場所 遊漁港、浅茂川漁港、
三津漁港、磯漁港

参加者 100人

ごみの量 自然物ゴミ 100袋、

人工物ゴミ 80袋、

その他 ダンベ水槽2本、

雑草2t、トラック6台



■ 滋賀県

滋賀県漁業協同組合連合会

令和2年7月1日

活動場所 沿湖漁協33組合の漁港
を中心に琵琶湖湖岸等

参加者 823名

ゴミの量 自然物ゴミ 87.24トン

人工物ゴミ 44.40トン



■ 山口県

尾国地区協議会

令和2年7月23日

活動場所 尾国地区海岸葛西海浜
公園西なぎさ

参加人数 54人

ごみの量 自然物ごみ 約120袋

人工物ごみ 約10袋

その他浮き、発砲スチロール

コメント 海岸に漂着物が多いと感じています。



■ 広島県

大崎上島町

令和2年7月5日

活動場所 大串海岸

参加人数 100名(地元地区住民、
漁協)

ごみの量 自然物ゴミ 約100袋
人工物ゴミ 約50袋
その他 流木、タイヤ、発砲スチロール、プラスチック類

コメント 流木や発砲スチロール、プラスチック類等の漂着ゴミが多く回収された。



■ 高知県

高知県四万十町

①令和2年6月17日

【地元小学校、中学生等】

②令和2年4月1日～令和2年9月30日

【四万十町観光協会等】

活動場所 興津海水浴場

参加者 ①50人 ②250人

ごみの量 ①自然物ゴミ 50袋

人工物ゴミ 50袋

②自然物ゴミ 800袋

人工物ゴミ 800袋

コメント ①海水浴シーズン(今年度はコロナの影響により海水浴中止)に行う地元小中学校とボランティアによる一斉清掃

②年間を通じた定期的な清掃活動伊方町地元有志



■ 愛媛県

伊方町 地元有志

令和2年4月3日、5月26日、6月16日

8月19日、8月25日、9月29日

活動場所 瀬戸高浦海岸

参加者 のべ17人

ごみの量 自然物ごみ 約138袋

人工物ごみ 約84袋

コメント 海岸美化への関心が高まった



■ 福岡県

吉富町、吉富漁業協同組合

令和2年7月23日

活動場所 吉富海岸

参加者 309人

ごみの量 自然物ゴミ 総計800袋

その他 大型のゴミについて

では直接トン袋に積み込み

コメント 吉富海岸を、一般ボランティア・関係団体等、総勢309名で清掃活動を実施した。



■ 佐賀県

①佐賀県

令和2年8月29日

活動場所 東与賀海岸

参加者 700名

ごみの量 自然物ゴミ1000袋

人工物ゴミ30袋

コメント 株式会社サガテレビと佐賀県が共同で県民や団体に呼びかけて、有明海の東与賀海岸の清掃活動を実施した。

②屋形石漁業協同組合

令和2年7月18日

活動場所 玄海沿岸域海浜

参加者 53名

ごみの量 自然物ゴミ80袋

人工物ゴミ15袋

コメント 玄海における廃棄物による漁業被害及び漁場の効用低下を抑制するため、漁業者自らが廃棄物の除去・回収処理をおこない、漁場の環境保全を図った。



■ 大分県

①べっぷの海岸みまもり隊

令和2年9月20日

活動場所 SPAビーチ

参加者 41名



②大分県漁業協同組合

臼杵支店

令和2年7月23日

活動場所 海岸全域38キロメートル

参加者 480名

ごみの量 自然物ゴミ 5510kg

人工物ゴミ 4950kg

コメント 参加者の高齢化が進んでいるので流木など大きなゴミの回収が難しくなってきた。

河川から流入してくるゴミも多いので、河川の清掃もしていくべきと感じた。



■ 長崎県

電源開発

令和2年6月9日

活動場所 長崎県松浦市大崎海水浴場

参加者 18名

ごみの量 自然物ゴミ1000袋

人工物ゴミ30袋



2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

① 令和元年度海浜等清掃活動状況調査報告

平成9年度から行っている海浜等清掃活動実施状況調査の令和元年度報告書を取りまとめました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>

【調査結果の概要】

海浜等清掃活動実施状況調査は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を集計する方法で行った。全国47都道府県を対象として調査票を配布しうち36都道府県から回答があった。

1 活動回数及び活動場所

清掃活動を実施した月別の実施回数と割合を図1及び図2に示す。

令和元年には、全国で延べ14,920回の活動が行

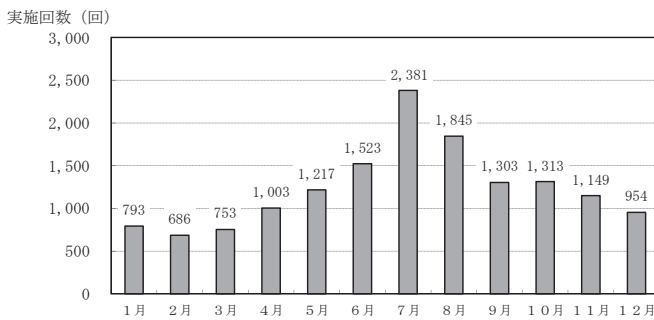


図1 月別実施回数

われた。特に6月、7月、8月の実施回数が多く全体の約38.5%を占めた。

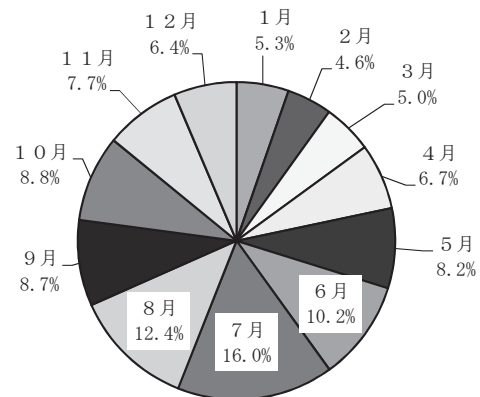


図2 月別実施回数の割合

2 主催者及び参加者

清掃実施場所別の清掃規模と参加人数を表1に、清掃実施場所別の参加人数の割合を図4に、参加者1人当たりの延べ清掃距離を図5に示す。

清掃活動の延べ参加人数は、約92万人であった。参加人数を活動場所別にみると、(約61万人)と河岸(約28万人)での活動が多く、この2つをあわせると全参加人数の約97%を占めた。

延べ清掃距離を比較すると、海岸が15,047km、河岸が1,571kmであるのに対して湖岸は486kmと短かった。

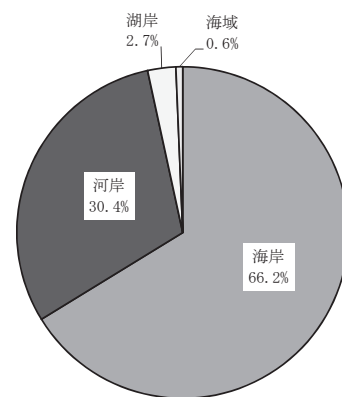


図3 清掃実施場所別の参加人数の割合

表1 清掃実施場所別の清掃規模と参加人数

	全体	海岸	河岸	湖岸	海域	
清掃人数(人)	923,750	611,882	280,510	25,390	5,968	
清掃距離	延べ距離(km)	17,104	15,047	1,571	486	—
	実距離(km)	19,222	12,570	6,226	426	—
	面積(km ²)	4,949	—	—	—	4,949

海域の清掃面積は4,949km²であった。

延べ清掃距離を参加人数で除した1人当たりの清掃距離は、海岸は約29.5m、河岸が約10.5m、湖岸が約19.2mであった。

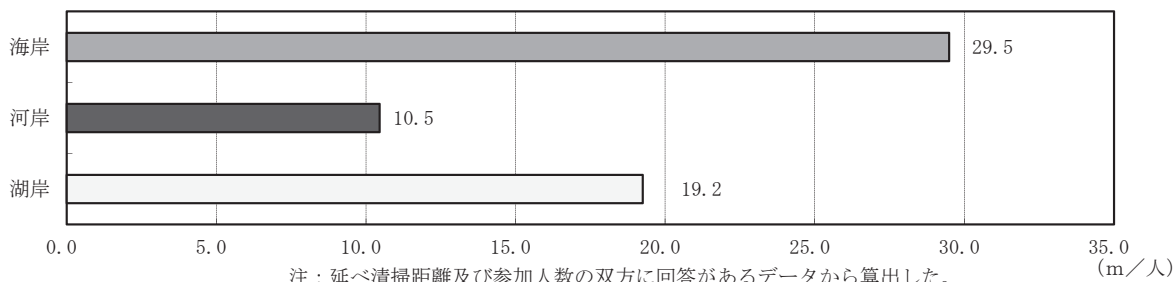


図4 参加者1人当たりの延べ清掃距離

3 ごみ回収状況

(1) ごみの回収量

ごみ回収量とその割合を図5に、参加者1人当たり及び延べ清掃距離当たりのごみ回収量をそれぞれ図6及び図7に示す。

ごみの回収量は、全体で約6万2千m³であった。

場所別では海岸が約5万2千m³で最も多く、次いで河岸が約5千m³となっており、この二つを合わせると全体の約93%を占めていた。

参加者1人当たりのごみ回収量は、海域が0.31m³で最も多く、次いで海岸が0.09m³、河岸が0.023m³となっており、最も少なかった湖岸は0.016m³であった。

延べ清掃距離当たりのごみ回収量は、海岸が約3.42m³/kmで最も多かった。

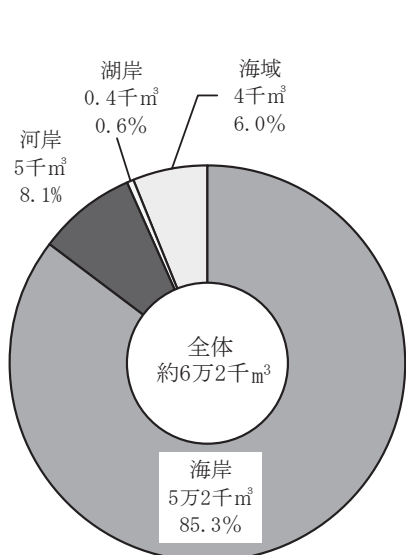


図5 ごみ回収量とその割合

注：各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

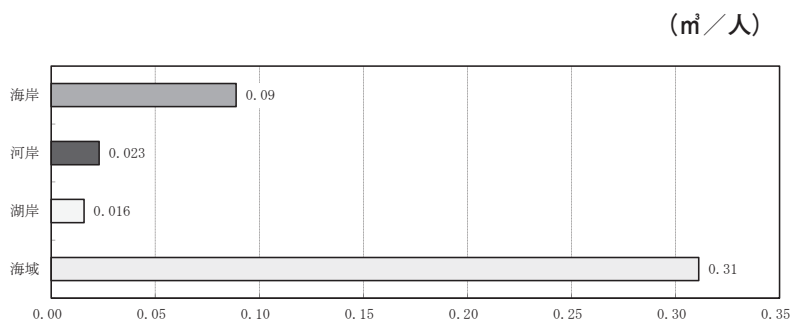


図6 参加者1人当たりのごみ回収量

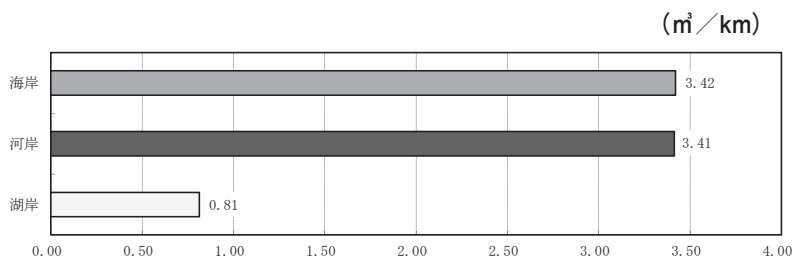


図7 延べ清掃距離当たりのごみ回収量

注：場所別の参加人数及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。

4 ごみの種類

清掃を実施した場所別のごみ回収量及びその種類を表2に示す。なお、ここでの回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

ごみ回収量に占める人工物と自然物の割合はおおむね7:3で、内訳をみると、人工物では木材・木片が多く(人工物その他を除く)、自然物では流木が多かった。

人工物と自然物の割合を場所別に見ると、海岸で約7:3、河岸で約2:8、湖岸で10:0、海域では約4:6となっていた。

表2 種類別のごみ回収量

単位: m³

種類	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
布・紙	33 (0.4%)	28 (0.4%)	2 (0.5%)	2.8 (76.1%)	1 (0.5%)
材木、木片等	742 (9.9%)	727 (10.4%)	12 (4.0%)	0.0 (0.0%)	3 (1.5%)
ペットボトル	350 (4.7%)	340 (4.8%)	7 (2.4%)	0.0 (0.0%)	3 (1.5%)
弁当箱、トレイ	19 (0.2%)	18 (0.3%)	1 (0.2%)	0.0 (0.0%)	0 (0.0%)
ロープ、網	266 (3.5%)	218 (3.1%)	4 (1.3%)	0.0 (0.0%)	44 (22.2%)
フロート、ブイ	48 (0.6%)	47 (0.7%)	1 (0.3%)	0.0 (0.0%)	0 (0.0%)
缶類	165 (2.2%)	156 (2.2%)	8 (2.5%)	0.3 (8.2%)	2 (1.0%)
ガラス	59 (0.8%)	58 (0.8%)	1 (0.4%)	0.3 (8.2%)	0 (0.0%)
人工物その他	3,271 (43.5%)	3,210 (45.8%)	31 (10.3%)	0.3 (7.6%)	31 (15.4%)
人工物計	4,954 (65.9%)	4,802 (68.4%)	65 (21.9%)	4 (100.0%)	84 (42.1%)
流木	2,455 (32.7%)	2,114 (30.1%)	229 (77.1%)	0 (0.0%)	112 (56.4%)
海草	82 (1.1%)	78 (1.1%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
自然物その他	24 (0.3%)	22 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
自然物計	2,562 (34.1%)	2,214 (31.6%)	232 (78.1%)	0 (0.0%)	115 (57.9%)
合計	7,516 (100.0%)	7,016 (100.0%)	297 (100.0%)	4 (100.0%)	199 (100.0%)

注1:各欄の値は四捨五入しているため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

注2:ここでのごみ回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

令和元年度海浜清掃等の美化活動事例調査報告書(抄)

(報告書の全文はホームページに掲載しています)

清掃活動実施団体(主催者を含む)の構成は図8に示すとおりである。

団体の分類は、地域関係団体(29%)、企業関係(22%)、水産運輸関係(16%)、行政(14%)の順に多かった。

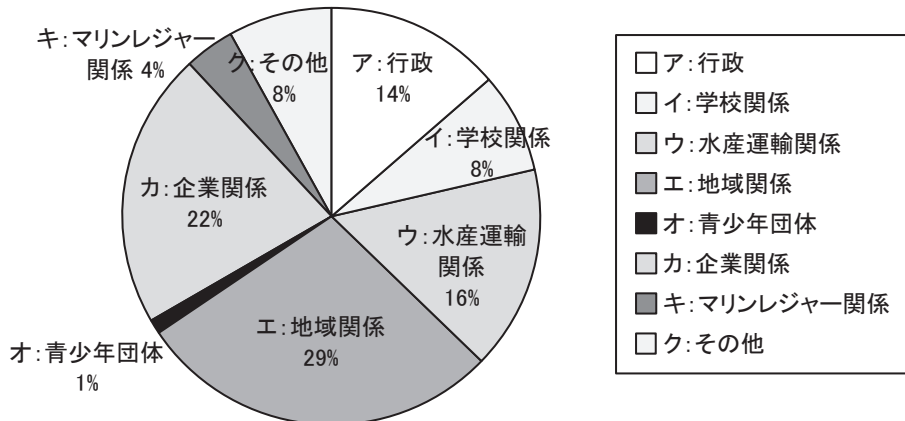


図8 清掃活動実施団体の構成(主催者を含む)

②令和元年度漁民の森づくり活動等調査

平成13年度から行っている漁民の森づくり活動等調査の令和元年度報告書を取りまとめました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>

【調査結果の概要】

令和元年度のアンケート結果から、128カ所程度の回答を得て、植樹活動では50種類程度(針葉樹10種以上を含む)の樹種が使用されていた。参加人数はのべ約1万人以上、作業本数は4万8千本程度であった(下刈りなど含む)。

表1から作業別で見ると、植付けと答えた回答のうち、北海道が60%程度を占めていた。下刈りは北陸・中部・近畿、九州、地ごしらえは北海道に多かった。その他には消毒、チップ敷き、ごみ拾い他清掃があった。

昨年度と比較すると、樹種数は10程度減少し、参加人数と作業(植樹)本数はあまり変わらなかった。

表1 地域ごとの作業種類の回答数(複数回答)

	植付け	下刈り	地ごしらえ	つる切り	枝打ち	間伐	その他
北海道	58	10	25	0	0	0	0
東北・関東	12	8	5	1	0	1	2
北陸・中部・近畿	10	10	2	4	2	1	4
中国・四国	7	5	1	0	2	1	1
九州	8	14	0	1	1	1	0

1 漁民の森づくり活動で使用された樹種

活動に使用された樹種上位10樹種について図1に示す。

昨年度に引き続きミズナラ(29カ所)が最も多かった。

これは活動数の多い北海道で多く使用される樹種(ミズナラは北海道で24所)で、その他の樹種は、広範囲で使用されている樹種である。

各地域で使用されている樹種について図2に示す。

北海道ではミズナラが最も多く24カ所だった。本州以南で見ると東北・関東ではブナ、コナラ、ミズナラ、北陸・中部・関西ではコナラ、サクラ、ブナ、中国・四国ではヤマザクラ、モミジ、九州ではヤマザクラ、モミジが多く使用されているようである。

使用された樹種は北海道27種、東北・関東18種、北陸・中部・近畿11種、中国・四国11種、九州13種であった。

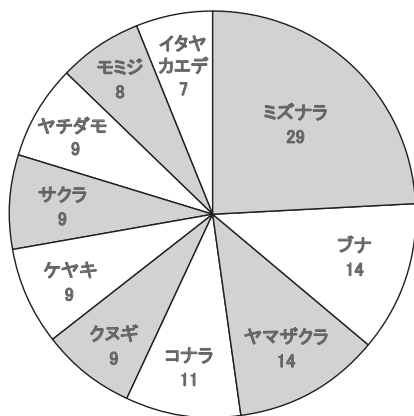


図1 全国の植樹活動で多く使用されている上位10樹種
(活動数であって、本数ではない)

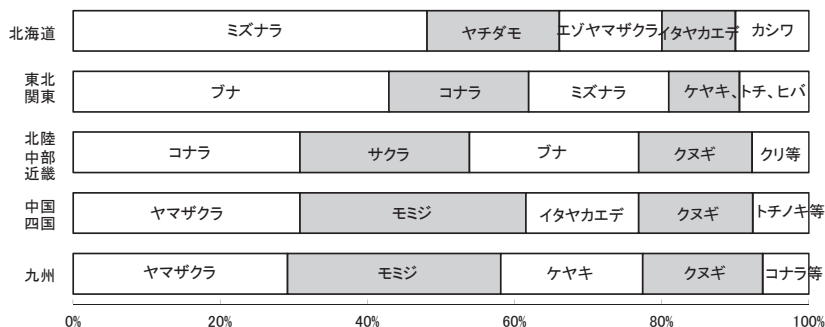


図2 各地方で植樹活動で使用される上位5樹種
(活動数であって、本数ではない)
注: 東北関東のケヤキ、トチ、ヒバは同活動数のため3種記載した。

2 漁民の森づくり参加者の漁業種類(複数回答)

活動に参加した漁業者の漁業種類で見ると、漁業種類が一種の場合と複数の場合の割合は1:3であった。

図3から、参加者の漁業種類は、定置・建網18%次いで、刺網・流し網、延縄・潜水・船曳、採藻が10~13%であった。魚類養殖、貝類養殖、藻類養殖を合計した養殖業全体だと17%を占めていた。

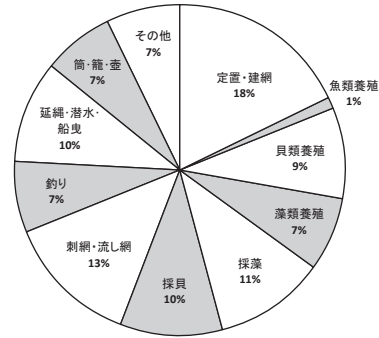


図3 森づくり活動参加者の漁業種類(複数回答)

3 令和2年度以降の漁民の森づくりについて

来年度以降の予定を図4で見ると、「植樹の他、下刈り等管理にも力を入れていくが最も多く30%」「植樹はほぼ済んだので下刈り等管理にも力を入れていく」を加えると50%占め、植樹活動内容の中心が管理作業に移行していると考えられる。

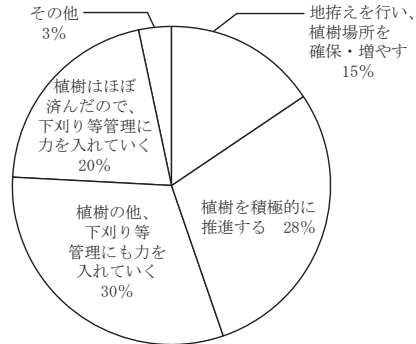


図4 令和2年度以降の漁民の森づくり作業予定について

4 漁民の森づくり活動に携わる参加団体の構成について(複数回答可)

「様々な団体が参加し、まち(都道府県、市町村)全体のイベントに広がった」が17%、「漁協女性部や青壮年部などで始まったが、漁協・漁連職員も参加するようになった」が14%であった。最も多かった「その他」に

は、海浜清掃団体の参加がある、漁業者の参加減少、他団体の活動に共催として参加、部会から実行委員会として参加などがあった。

表 漁民の森づくり活動に携わる参加団体の構成について(複数回答可)

当初から漁協女性部や青壮年部などが単独で森づくり活動を実施している	12%
漁協女性部や青壮年部などで始まったが、漁協・漁連職員も参加するようになった	14%
様々な団体が参加し、まち(都道府県、市町村)全体のイベントに広がった	17%
開始当初に比べて、森づくりの参加団体数が増えている	13%
開始当初に比べて、森づくりの参加団体数が減っている	13%
その他	31%

5 漁民の森づくり活動に携わる参加団体との交流について(複数回答可)

作業を完了した植樹地の活用について質問したところ、「この活動以外に、参加団体間の交流はない」が37%と最も多く、次いで「その他」23%、「漁業団体のイベントに他参加団体が参加」が16%、「漁

業団体が他参加団体の出前授業に呼ばれたことがある」が10%であった。「その他」には森林組合の方に協力してもらっている、他の青壮年部との交流ができて、山間部との交流といった回答があった。

表3 漁民の森づくり活動に携わる参加団体との交流について(複数回答可)

この活動をきっかけに、漁業団体の清掃活動に他参加団体が参加するようになった	9%
この活動をきっかけに、漁業団体のイベントに他参加団体が参加するようになった	16%
この活動をきっかけに、漁業団体が他参加団体の出前授業に呼ばれたことがある	10%
この活動をきっかけに、漁業団体が他参加団体の活動に参加するようになった	5%
この活動以外に、参加団体間の交流はない	37%
その他	23%

3. 環境・生態系維持・保全活動等支援事業

環境保全のための次世代を担う人材の育成と沿岸域の環境保全を目指す団体が実施するプロジェクトに助成します。令和2年度に助成した団体の活動を報告します。詳しくはホームページ(<http://www.umitonagisa.or.jp/html/n-kikin.html>)に掲載しています。

～漂着ごみ回収処理作業展～琴引浜鳴き砂文化館

活動目的

琴引浜がきれいなのは当たり前ではありません。鳴き砂を守るために、人の手できれいにしているのです。ごみを拾うという地道な作業を毎日続けているからです。鳴き砂はとても繊細で、砂が汚れてしまうと鳴かなくなります。そのメカニズムを理解することは難しいのですが、なぜ音が出るのか？ということの説明するより、砂が汚れると音が出なくなることを私たちは来館される方々に伝えています。“鳴き砂は人の力では作れない、だからこそ守るに値する”鳴き砂の父と呼ばれる同志社大学教授だった故三輪茂雄先生の言葉です。いつの日か、清掃しなくてもごみのない美しい海岸になることを願って漂着ごみの企画展を開催致しました。

事業内容

琴引浜の職員による日常的な清掃風景を紹介。浜の漂着ごみを集め、仕分けし最終処分場まで持ち込む工程を紹

介。また漁業関係者を含む地域住民による清掃活動、環境美化活動、重油災害の記録、さらにSDGsにつながるプラスチックフリー、エシカル消費の推進もさわりだけではありますが紹介しました。

実施期間：令和2年9月16日(水)～

令和2年10月31日(土)

実施場所：引浜鳴き砂文化館 1F集会場

総括

開催期間中は多くのお客様にご覧頂きました。期間中の入館者は1,516名。海の環境についての意識向上に多少ではあるが繋がったのではないかと考えています。また、開催期間が市内小学校の課外授業の期間と重なったこともあり、子ども達の学びの資料としても活用できました。今後も引き続き鳴き砂や漂着ごみについて語り続けて行きたいと思っています。



パネル展示会場1



パネル展示会場2



パネルを眺める入館者

あ と が き

今年度は、新型コロナウイルス禍の影響が多々あり、当機構でも出張が中止になったり、会議が書面となる等、業務の見通しがこれほど不透明な年はありませんでした。時差通勤や在宅勤務、テレワーク等、新たな業務形態が展開されました。パソコンを介しての仕事の流れは「隔靴搔痒の如し」で、メールの文書を推敲しているうちに事態は進んで

いき、急ぎ打った内容では、タイミングもずれ、うまく意思が伝わらないといった具合で、改めてコミュニケーションの重要性を再認識させられたところ です。令和3年度は健やかな風の空の下、和やかに海浜清掃に繰り出せるそんな年でありたいものです。

(石山)

